

「-것 같다」^{geot gatta}と「-ようだ」 —前接する連体形との結合関係を中心に—

陸 心芬(名古屋大学非常勤講師)

要 旨

本稿では日本語のモダリティ表現「-ようだ」とこれに対応する韓国語の「-것 같다」^{geot gatta}を取り上げ、前接する連体形の結合関係を中心に考察した。韓国語の連体形は日本語には表れない未来の連体形をとることでより複雑である。そこでまず韓国語の連体形を見直した。つまり未来を表す連体形「-ㄹ」^lは未来だけでなく過去の「-ㅁ」^{ma}と結合して「-ㅁ을」^{ma-eul}の形を取ることに注目し、これらを「未実現の未来」と「未実現の過去」として新たに整理した。この仕分けに従って、「-것 같다」^{geot gatta}と「ようだ」の対照分析を行い、日本語の連体形には未実現の要素が無いことによって、両語の意味の差や訳の違いが生じることを説明した。

1. はじめに

日本語の「-ようだ(-みたいだ)」「-らしい」「-(し) そうだ」「-(する) そうだ」は一般的に推定表現とされ、森山(2000)では、徴候性判断と言われている。徴候性判断というのは「命題内容として描き取られた事態の成立が存在している徴候や証拠から引き出され捉えられたもの」であるとされている¹。それに対する韓国語の形式には「-것 같다」^{geot gatta}「-모양이다」^{mo-yang i da}「-성싶다」^{seong-sip-pi-da}「-법하다」^{beop-ha-da}「-듯하다」^{deut-ha-da}「-가 보다」^{ga bo-da}「-가 싶다」^{ga sip-pi-da}など²があり、それらは推定表現形式³と呼ばれている。

本稿ではこれらの形式の意味を分析する前に、推定表現に前接する連体形との結合関係を整理し、両言語の連体形の接続の違いから意味の違いがどのように表れるかを明らかにする。そのため対象とするものは「-ようだ」に対応する「-것 같다」^{geot gatta}を代表的に取り上げることにする。なぜなら、「-것 같다」^{geot gatta}が他の推定表現と比べて形態面や意味面で最も「ようだ」に近いからである。形態面では「-ようだ」が「様(体言)+だ(助動詞)」の構成で、前に連体形を取る。これに対応する韓国語の「-것 같다」^{geot gatta}は「[것[物(依存名詞)]+같다[同じだ(動詞)]]」で、前に連体形を必要とする。意味的な機能も状況描写を表す面で類似している。よって、「-ようだ」と「-것 같다」^{geot gatta}を代表として対照し、連体形との結合関係を考察する⁴。

¹ 森山(2000)

² 이기중(2001)

³ これらの形式については推定や様態表現などの呼び名があるが、本稿では推定表現形式(구연미 1992)として統一して使う。

⁴ 一方、「-ようだ」と意味が類似している「-らしい」は形容詞的な活用をする助動詞であるため、今回の対象から外す。

2. 研究の目的

韓国語の連体形の種類としては基本的に「-^{neun}ㄴ, -(^oㄹ)ㄴ, -(^oㄹ)ㄷ」⁵があり、時制/相や用言に従って各々結合され表される⁶。三つの連体形態を趙義成(1999)は形態や意味の差により二つのグループに分けた。その一つが「^{neun}ㄴ」系連体形(「-^{neun}ㄴ/-(^oㄹ)ㄴ/-^{deon}ㄷ」など「^{neun}ㄴ」で終わる連体形)であり、その中には現在連体形(「-^{neun}ㄴ/-(^oㄹ)ㄴ」)と過去連体形(「-(^oㄹ)ㄴ/-^{deon}ㄷ」など)がある。もう一つが未来連体形を表す「^{deon}ㄷ」系連体形で「(^oㄹ)ㄷ」がある。「^{neun}ㄴ」系と「^{deon}ㄷ」系連体形には(1)(2)のような意味の差がある。(1)(2)は「^{meok}ㄷ (食べる)」が「^{geot}ㄷ」という形式名詞に結合する場合で例示する。(1)は「^{neun}ㄴ」系連体形を使った文であり、(2)⁷は「^{deon}ㄷ」系連体形を使った文である。

- (1) k⁸: ^{g u neun} 그는 ^{ppangneul} 빵을 ^{mok t a} 먹다.
 → 그는 ^{g u neun} 빵을 ^{meokneun} {먹는 것이다 / ^{meogeun} 먹은 것이다}.
 {[^{meok t a} 먹다(食べる)+^{neun}ㄴ(現在連体形)]+[^{geot}ㄷ(物)+^{i d a}이다(である)] /
 [먹다(食べる)+^oㄹ(添加音)+^{neun}ㄴ(過去連体形)]+[^{geot}ㄷ(物)+^{i d a}이다(である)]}
 j⁹: 彼は パンを 食べる。
 → 彼は パンを {食べるのだ / 食べたのだ}。

- (2) k: ^{g u neun} 그는 ^{ppangneul} 빵을 ^{mok t a} 먹다.
 → 그는 ^{g u neun} 빵을 ^{meogeul} {먹을 것이다}.
 {[^{meok t a} 먹다(食べる)+^oㄹ(添加音)+ⁱㄷ(未来連体形)]+[^{geot}ㄷ(物)+^{i d a}이다(である)]}
 j: 彼は パンを 食べる。
 → 彼は パンを {食べるだろう}。

(1)のkが「^{neun}ㄴ」系の現在連体形や過去連体形を取り「-^{geot}ㄷ」¹⁰と結合した場合、その訳であるjでは非過去連体形や過去連体形を取り「-ⁱㄷ」に結合している。ところが、(2)のkが「^{deon}ㄷ」系連体形を取り「-^{geot}ㄷ」¹⁰と結合した場合、jでは訳のとおり「-^oㄹ ^{geot}ㄷ」¹⁰が「-ⁱㄷ」という推定の意味に変わるのである。韓国語の「^{neun}ㄴ」系連体形と「^{deon}ㄷ」系連体形には、このようなムード的意味の違いがある。

この二つの分類に従って、「-ⁱㄷ」に対応する「-^{geot}ㄷ ^{gal}ㄷ」の表現について、「^{neun}ㄴ」系と「^{deon}ㄷ」系の連体形の結合の様相について考えていく。まず、(3)の未来の事態を表す対照的な例文から見る。

⁵ 「-(^oㄹ)ㄴ」と「(^oㄹ)-ⁱㄷ」における「-^{neun}ㄴ」「-ⁱㄷ」は語幹が母音で終わった場合に用いられ、また、「-(^oㄹ)ㄷ」が添加した「-^{neun}ㄴ」や「-ⁱㄷ」の形態は語幹が子音で終わった場合に用いられる。

⁶ 서정수(1994)

⁷ 以下の例文及び翻訳はすべて筆者の作例である。

⁸ 例文の「k」は韓国語の文を示す記号である。

⁹ 例文の「j」は日本語の文を示す記号である。

¹⁰ 「-ⁱㄷ ^{geot}ㄷ」は「-^{geot}ㄷ」と共に「-ⁱㄷ」に当たる推定表現である(서정수 1994)

geot galla
「-것 같다」と「-ようだ」 —前接する連体形との結合関係を中心に—

(3) j : 空の様子をみると、明日雨が降るようだ。

k : 하늘 상태를 보니, 내일 비가 {*오^o는 / 올^o} 것 같다.
 {[*오^o다(来る)+는^{neun}(現在連体形)] / [오^o다(来る)오^o+ㄹ^l(未来連体形)]
 +[것^{geot}(物)+같다^{gall'a}(同じだ)]}

(3) の j は [明日] を伴って [降る] の非過去連体形が「-ようだ」に結合しているのに対し、k では、[明日] により、「ㄹ^l」系の未来連体形「-ㄹ^l」が使われ「-것 같다」に結合している。「^o」系の現在連体形「-는^{neun}」が使われると非文になる。

次の (4) は過去の事態を表した対照文である。

(4) j : 昨日彼が来たようだ。

k : 어제 그가 {오^o / 왔^{wasseu}} 것 같다.
 {[오^o다(来る)+ㄴⁿ(過去連体形)] /
 [오^o다(来る)+아^a(添加音)+ㅁ^m(過去時制)+으^{eu}(添加音)+ㄹ^l(未来連体形)]
 +[것^{geot}(物)+같다^{gall'a}(同じだ)]}

(4) の j は [昨日] を伴って [来る] の過去連体形を取り「-ようだ」と結合しているのに対して、k では「ㄴⁿ」系の過去連体形「-ㄴⁿ」と「ㄹ^l」系連体形「-ㄹ^l」の二つの表現が可能である。(4) k で「ㄹ^l」系連体形を取る場合、過去時制の「-ㅁ^m」を伴わなければならない。ここで、(3) と (4) の j が各々非過去と過去の連体形を取るのに対して、k では同じ「ㄹ^l」系連体形が用いられている。その面からみて両語の連体形には違いがあることが分かる。

以上のことから韓国語の連体活用の結合関係を再検証し¹¹、「-것 같다」を中心としてその連体形の出現を探り、「ようだ」に前接する連体節との比較を通じて両者の相違点を対照分析する。両言語の連体形の違いに注目することによって両者の表現がより精密に観察できると思われる。

3. 韓国語の連体形

韓国語の連体形は前に接続する用言の種類によって形態が違う。韓国語の用言は、動詞、形容詞以外に存在詞と指定詞を加えて四つに分類される。存在詞は物事の「あり」「なし」を表し、形態としては「있다 (ある、いる)」「계시다 (尊敬の「いらっしゃる」)」「없다 (ない、いない)」がある。指定詞は名詞句と結合して叙述機能を表し、形態としては「-이다 (...である)」がある¹²。

¹¹ (表 2)

¹² 서정수(1994)

(表 1)

	非過去	過去 1	過去 2	過去 3	未実現
動 詞	I - ^{neun} 는	II - ⁿ ㄴ	III - ^{s s deon} ㅅㄴ	I - ^{deon} 던	II - ⁱ ㄹ
存在詞		I - ^{deon} 던			
形容詞・指定詞	II - ⁿ ㄴ				

(朝鮮語学小辞典)

(表 1) は朝鮮語学小辞典から引用したものである。これは基本的な連体形「-^{neun}는、-(^o)ⁿㄴ、-(^o)ⁱㄹ」を中心に、回想・経験を表す「^{deon}던(回想の終結語尾)」に「-ⁿㄴ」の連体形が結合した「-^{deon}던」が加わっている。また、過去時制を表す「-^{s s}ㅅㄴ」に「-^{deon}던」が結合した「-^{s s deon}ㅅㄴ」 という形態を加えて表した表である¹³。

本稿では連体形と「-^{deon}던 ^{geot}같이」の結合関係を「ⁿㄴ」系連体形と「ⁱㄹ」系連体形に分けて考察するので、(表 1) で「ⁱㄹ」系連体形を持たない「-^{deon}던」を省略して(表 2)を再構成し、それに従う。

(表 2)

	「 ⁿ ㄴ」系連体形(実現)		「 ⁱ ㄹ」系連体形(未実現)	
	過去形	現在形	過去形	未来形
動 詞	- ⁿ ㄴ	- ^{neun} 는	- ^{s s eul} 을	- ⁱ ㄹ
存在詞	- ^{s s deon} ㅅㄴ	- ⁿ ㄴ		
形容詞・指定詞				

(表 1) と (表 2) は、「ⁱㄹ」系連体形を未実現ととらえるという点では共通しながら、(表 2) では連体形を「ⁿㄴ」系・「ⁱㄹ」系という形態的な違いから捉えなおしている点で大きく異なる。

「ⁿㄴ」系の実現では現在形と過去形があるが、実現を表す未来形がない。また、「ⁱㄹ」系の未実現では過去形と未来形はあるが、未実現を表す現在形がない。ただ、「明日行く人」の場合は、「ⁿㄴ」系(내일 가는 사람)と「ⁱㄹ」系(내일 갈 사람)の両方で表せ、「行く」ことは未来を表すが、これは純粋な未来を表すより現在の延長と考えられる。「내일 가는 사람」と「내일 갈 사람」の違いは、前者は行くことが決まっています誰が行くかを表すことであり、後者は行く人がまだ決まっていない場合に行けるかどうかの可能性を表す。一方、「ⁱㄹ」系は、(4) で見たとおり、未来以外に過去時制「-^{s s}ㅅㄴ」を伴って過去にも使える。

また、存在詞、形容詞、指定詞は「ⁿㄴ」系の過去連体形を持たないが、回想・経験の「-^{deon}던」があり、これは過去連体形と捉えられる。ただ、ここでは「-^{deon}던」と過去時制「-^{s s}ㅅㄴ」を伴う結合形態の「-^{s s deon}ㅅㄴ」の形だけを取り上げる。同様に「ⁱㄹ」系の過去連体形の「-^{s s eul}을」も「-^{s s}ㅅㄴ」と「-^{eul}을」が結合した形態で表す。

¹³ 朝鮮語学辞書「連体形の過去時制には3つの部類がある。過去1は通常の過去を表すものである。過去2は結果が残っていない過去を表すが、存在詞・形容詞・指定詞の過去2は、過去1と意味的に大差がない。過去3は時間的な幅のある過去を表し、動詞にのみ存在する。連体形の時制は、同一の形が異なる文法的意味を表すものがあるので(II-ㄴ、I-던 など)注意を要する。」

4. 連体形を通した「-것 같다」^{geot gatta}と「-ようだ」の対照

日本語の連体形の体系について(表3)で表す。

(表3)

	過去連体形	非過去連体形
動 詞	-た	-る ¹⁴
イ形容詞		-い
ナ形容詞	-だった	-な
名 詞		-の

日本語の連体形は、「-ようだ」を接続させると、動詞とイ形容詞は過去形か非過去形を取る一方、ナ形容詞では「だった」形と「な」形を、名詞の場合は「だった」形と「の」形を取る。ところが韓国語は、実現/未実現の捉え方があるため、日本語より複雑である。用言が「-것 같다」^{geot gatta}に結合するためには、上述したように、「ㄴ」系連体形か「ㄹ」系連体形によるが、名詞においては日本語と違う。日本語の名詞は「ようだ」に前接する際「の」と「だった」形を取るが、韓国語の名詞の場合は名詞が指定詞「-이다」^{ida}(…である)を伴い用言化して連体形を取る。つまり、「名詞句+指定詞」の形態として、「ㄴ」系連体形か「ㄹ」系連体形を取る。

本節では韓国語の用言の連体形と、「-것 같다」^{geot gatta}の結合関係を(表2)と(表3)に従って確認し、そこから派生する両言語の意味的な違いを検証する。

4.1. 「動詞の連体形+것 같다」^{geot gatta}と「-ようだ」

(表2)と(表3)に従い、「-ようだ」と「-것 같다」^{geot gatta}の連体結合関係をみる。考察方法としては「ㄴ」系連体形と「ㄹ」系連体形で分けて、両言語の翻訳関係を中心に意味的な面の相違点を探る。

まず、「ㄴ」系連体形と「-것 같다」^{geot gatta}の結合をみる。

- (5) k : 그가 밥을 먹다.
 → 그가 밥을 먹는 것 같다 / 먹은 것 같다.
 {[먹다(食べる)+는(現在連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)] /
 [먹다(食べる)+으(添加音)+ㄴ(過去連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)]
- j : 그가 ご飯を 食べる.
 → 그가 ご飯を {食べているようだ/食べたようだ}.
- (6) k : 그가 책을 읽다.
 → 그가 책을 읽는 것 같다 / 읽은 것 같다.
 {[읽다(読む)+는(現在連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)] /
 [읽다(読む)+으(添加音)+ㄴ(過去連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)]
- j : 그가 本を 読む.
 → 그가 本を {読んでいるようだ/読んだようだ}.

¹⁴ 動詞の連体形の厳密に表記すると語形が「-u」で終わるが、ここでは簡略に「-る」で表記する。

(5) (6) kは「ㄴ」系の現在連体形「-ㄴ」と過去連体形「-ㄴ」が「-ㄹ것 같다」に結合した文である。これに対応する日本語は非過去連体形と過去連体形で表されている。その日本語を逆に韓国語で訳しても(5) (6) kと同じように訳される。

一方、日本語の時制において動作動詞の非過去形が叙述形で使われたとき、現在形が未来まで表せることについては、韓国語でも同様に動作動詞の非過去形が叙述形に使われたときには現在形が未来まで表せる¹⁵。その意味で韓国語も、時制において非過去と過去の区別が存在する。ところが、韓国語の連体形において非過去形を用いた場合、時制と同じように現在形が未来を表すことはできない。現在連体形を取った場合は現在にしかならない。そのため(5) (6) のkで現在連体形が使われたことに対応して、日本語では「…ているようだ」のようにアスペクト形式を取って現在を表す必要がある。もし、(5) のjが「食べているようだ」ではなく「食べるようだ」という非過去形を取るならば、逆に訳した場合、韓国語では(7)のように二つの解釈が可能であろう。

(7) j : 彼가 ご飯을 食べる ようだ。

k : 그가 밥을 {먹는 것 같다 / 먹을 것 같다}.

{[^{meokt a}먹다(食べる)+^{neun}는(現在連体形)]+[^{get}것(物)+^{gall a}같다(同じだ)] /
[^{meokt a}먹다(食べる)+^o오(添加音)+^{get}것(未来連体形)]+[^{get}것(物)+^{gall a}같다(同じだ)]}

(7) jが「非過去形+ようだ」であるため、kでは「ㄴ」系の現在連体形と「ㄹ」系の未来連体形が用いられ「-ㄹ것 같다」に結合している。「ㄴ」系の現在連体形と「ㄹ」系の未来連体形の違いは、「ㄴ」系を使った場合、話し手が「ご飯を食べる」という情報をインプットしていれば、現在形で表せる。情報源は、今からご飯を食べるといった言葉を聞いたり、いつものなら今の時間がご飯を食べる時間であることを知っていたりするといった事実に基づくものである。事柄が現在に行われているような状況で用いられるため、臨場感が高まる。この場合は「^{neun}는(現在連体形)+^{get}것 같다」の表現が可能である。これに対して、「^{get}것+^{gall a}같다」は、「ご飯を食べる」ことがこれから行われる予想を表す。事柄が実現されるかどうかまだ確実でない場合に用いられるため、臨場感からは外れる。もし臨場感を表したい場合は近い未来を表す「今」のような名詞と共に表すことができる。このような意味から「^{get}것+^{gall a}같다」をここでは「未実現未来推定」と名付ける。これは、趙義成(1999)が(表1)の「ㄴ」系と「ㄹ」系連体形で表した「既実現」と「未実現」の違いが「-ㄹ것 같다」の推定表現と連体形との結合関係においても表れることを表すものである。未実現未来推定の説明は、(3) jにおいても説明可能である。(3) jは(7) jと同じように非過去形の連体形を使った文であるが、現在連体形は取れず未来連体形だけが可能な例であった。

(3) j : 空의 様子をみると、明日 雨が 降る ようだ。

k : 하늘 상태를 보니, 내일 비가 {*오^{neun}는 / 오^{get}를} 것 같다.

{[*^{o da}오다(来る)+^{neun}는(現在連体形)] / [^{o da}오다(来る)오+^{get}것(未来連体形)]
+[^{get}것(物)+^{gall a}같다(同じだ)]}

¹⁵ 「彼は全行く。→ 그는 ^{siyeun}치^{na}나^{da}다。」と「彼は明日行く。→ 그는 ^{naeil}내^{il}다。」のように現在形が未来の内容まで表せる。

(3) の k で「^{neun}는(現在連体形)」が使われないのは、「^{neun}는+^{geot}것 ^{gatta}같다」は現在の様子やすぐその様子が実現される事柄を意味するため、現実から離れた「明日」という条件と矛盾するからである。また、自然現象の変化については「^{neun}는(現在連体形)」は使えず未実現の「^{eu}ㄴ」系連体形が使われるが、それは自然現象が正確に予測しにくいので、実現可能かどうか判断できないためであろう。一方、「^{neun}는+^{geot}것 ^{gatta}같다」を用いて「^{nae}내일 ^{eu}그가 ^o오는 ^{geot}것 ^{gatta}같다。(明日彼は来るようだ。)」という文が成立する場合があるが、その意味は既に知っている情報に基づいて婉曲的に表す場合である。

次に、韓国語の「^{geot}것 ^{gatta}같다」の表現に「^{eu}ㄴ」系連体形が結合した場合を見てみよう。前述したように「^{eu}ㄴ」系連体形は(3)(4)のように未来の推定や過去の推定を表現するものであった。

- (8) k : 그가 밥을 먹다.
→ 그가 밥을 {^{meogosseul}먹었을 ^{geot}것 ^{gatta}같다 / ^{meogeul}먹을 ^{geot}것 ^{gatta}같다}.
{^{meokt}먹다(食べる)+^{eo}어(添加音)+^{ss}ㅁ(過去時制)+^{eu}으(添加音)+^{eu}ㄴ(未来連体形)}
+[^{geot}것(物)+^{gatta}같다(同じだ)] /
{^{meokt}먹다(食べる)+^{eu}으(添加音)+^{eu}ㄴ(未来連体形)}+[^{geot}것(物)+^{gatta}같다(同じだ)]
j : 彼가 ご飯を 食べる。
→ 彼가 ご飯을 {食べたようだ/食べるようだ}.
- (9) k : 그가 책을 읽다.
→ 그가 책을 {^{ieosseul}읽었을 ^{geot}것 ^{gatta}같다 / ^{iegeul}읽을 ^{geot}것 ^{gatta}같다}.
{^{ikt}읽다(読む)+^{eo}어(添加音)+^{ss}ㅁ(過去時制)+^{eu}으(添加音)+^{eu}ㄴ(未来連体形)}
+[^{geot}것(物)+^{gatta}같다(同じだ)] /
{^{ikt}읽다(読む)+^{eu}으(添加音)+^{eu}ㄴ(未来連体形)}+[^{geot}것(物)+^{gatta}같다(同じだ)]
j : 彼가 本を 読む。
→ 彼가 本을 {読んだようだ/読むようだ}.

(8) (9) k は結合形式「-^{ss}ㅁ(過去時制)+^{eu}ㄴ+^{geot}것 ^{gatta}같다」と「^{eu}ㄴ+^{geot}것 ^{gatta}같다」の例である。両者の違いは過去時制「-^{ss}ㅁ」があるかどうかであるが、「-^{ss}ㅁ+^{eu}ㄴ+^{geot}것 ^{gatta}같다」は常に過去時制「-^{ss}ㅁ」と「^{eu}ㄴ」が結合した「-^{ss}ㅁ^{eu}ㄴ」形態で表れる。「-^{ss}ㅁ」は[単純過去、完結相、過去進行相、過去反復相、過去習慣相、過去状態]のアスペクトの意味¹⁶も含んでいる。ここでは単純過去で使われ、ある動作や状態が過去の時点で行われたことを表す。(8) (9) の k の「-^{ss}ㅁ(過去時制)+^{eu}ㄴ+^{geot}것 ^{gatta}같다」は、過去の時点に未実現が加わり、さらに「^{geot}것 ^{gatta}같다」の推定表現が結合された文である。その意味でここでは「-^{ss}ㅁ(過去時制)+^{eu}ㄴ+^{geot}것 ^{gatta}같다」を「未実現過去推定」と名づける。この未実現過去推定に対応する(8) (9) j は過去連体形を用いて「食べたようだ」「読んだようだ」になり、これは(5) (6) j と同じ形態を取っている。つまり、(8) (9) k の「^{meogosseul}먹었을 ^{geot}것 ^{gatta}같다」「^{ieosseul}읽었을 ^{geot}것 ^{gatta}같다」は「食べたようだ」「読んだようだ」のような「過去連体形+ようだ」の形態の「過去推定」の意味を表すが、日本語には「未実現」の形態素は見られない。それは、(8) (9) を逆に訳してみると分かる。ここでは(8) だけを取り上げ(10)

¹⁶ 서정수(1994)

のように逆に訳してみる。

- (10) j : 彼が ご飯を 食べたようだ。
 k : 그가 밥을 먹은 것 같다.

(10) j の [食べたようだ] に対しては [먹은 것 같다] が当てられる。普通 [食べたようだ] の訳としては [먹었을 것 같다] より (10) のように [먹은 것 같다] の形態で表すのが一般的である。それは日本語の過去連体形には「未実現」を表す意味が含まれてないからであろう。

このように日本語では連体形で「未実現過去推定」を表すことが出来ない。ただし、[먹었을 것 같다] を [食べたようだった] のように推定表現にタ形を用いると、ある意味で「未実現過去推定」を表すことが出来る。それは「-ようだった」「-そうだった」などの推定表現のタ形が“(過去の時点で推定が成り立ったが) 実現しなかった”という意味で表しやすい点からである。しかしながら、[먹었을 것 같다] には“実現しなかった”という意味ではなく、実現されるかどうかまだ確実ではないところに違いがある。逆に“実現しなかった”の意味を韓国語で表すためには [-것 같다] の過去形の [-것 같았다] を用いて表す。つまり [먹었을 것 같았다] は「食べたようだったけど食べなかった」の意味になる。[-것 같았다] は全ての連体形と共に、“(過去の時点で推定が成り立ったが) 実現しなかった”の意味を持つ。

一方、(8) (9) の「ㄷ+것 같다」の結合関係にある「未実現未来推定」は、日本語では [食べるようだ] [読むようだ] のように非過去連体形で表される。また、その日本語を韓国語に訳すと韓国語は現在連体形を取り [먹는 것 같다] [읽는 것 같다] の形態になる。つまり、「ㄷ+것 같다」の構造は現れにくい。日本語の非過去連体形が韓国語の「ㄷ」系連体形に対応して使われるとするならば、それは未来に起こる事態を予想する場合や描写的な様態を表す「-しそうだ」の文の場合である。

- (11) j : 空の様子をみると、明日雨が降るようだ。

k : 하늘 상태를 보니, 내일 비가 올 것 같다. ((3)の再掲)

- (12) j : 「みんな社長に惚れ込んでるようですよ。ともかく、こんなこと初めてです。目が回りそうですよ」
 『女社長に乾杯!』

k : 「모두 사장님한테 반한것 같아요. 어쨌든, 이런거 처음입니다. 눈이 돌 것 같아요.」

4.2. 「形容詞の連体形+것 같다」と「-ようだ」

まず、「ㄴ」系連体形と「-것 같다」の結合をみる。(13) の j はイ形容詞であり、(14) の j はナ形容詞のため活用に形態的な違いが現れる。

- (13) k : 저 사람은 계산이 빠르다.

→ 저 사람은 계산이 {빠른 것 같다 / 빨랐던 것 같다}.

{[빠르다(早い)+아(添加音)+ㄴ(現在連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)] /

[빠르다(早い)+아(添加音)+ㅆ(過去時制)+더(回想)+ㄴ(過去連体形)]

+ [것(物)+같다(同じだ)]}

geot gatta
「-것 같다」と「-ようだ」 一前接する連体形との結合関係を中心に一

j : あの 人は 計算が 早い.
→あの 人は 計算が {早いようだ/早かったようだ}.

(14) k : 저 꽃이 예쁘다.
→ 저 꽃이 {예쁘^{y e ppeun} 것 같다^{geot gatta} / 예뻤^{y e ppeossdeon} 던 것 같다^{geot gatta}}.
{[예쁘다(綺麗だ)+으(添加音)+ㄴ(現在連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)]
/[예쁘다(綺麗だ)+어(添加音)+ㅁ(過去時制)+더(回想)+ㄴ(過去連体形)]
+[것(物)+같다(同じだ)]}
j : あの 花が きれいだ.
→あの 花が {きれいなようだ/きれいだったようだ}.

(13) (14) の韓国語では形容詞に対する「ㄴ」系の「-ㄴ(現在連体形)」が使われ現在の状態を表し、これに対応する日本語でも非過去形として現在の状態を表している。ところが、韓国語の形容詞は「ㄴ」系の過去連体形は持たず、「-ㅁ(過去時制)+더+ㄴ」の結合形態である「-ㅁ던」形態として現れる。「-ㅁ던」は過去の回想や経験の意味を持ち、過去完結を表す¹⁷。(13) (14) の日本語の文を逆に訳しても (13) (14) の k と同じように連体形を取り「-것 같다」と結合する。

次に「ㄷ」系連体形をみる。

(15) k : 저 사람은 계산이 빠르다.
→저 사람은 계산이 {빨랐^{ppalrasseul} 을 것 같다^{geot gatta} / 빠를^{ppareul} 것 같다^{geot gatta}}.
{[빠르다(早い)+아(添加音)+ㅁ(過去時制)+으(添加音)+ㄷ(未来連体形)]
+[것(物)+같다(同じだ)] /
[빠르다(早い)+르(添加音)+ㄷ(未来連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)]}
j : あの 人は 計算が 早い.
→あの 人は 計算が {早かったようだ/早そうだ (早いようだ)}.

(16) k : 저 꽃이 예쁘다.
→ 저 꽃이 {예뻤^{y e ppeossseul} 을 것 같다^{geot gatta} / 예쁠^{y e ppeul} 것 같다^{geot gatta}}.
{[예쁘다(綺麗だ)+어(添加音)+ㅁ(過去時制)+으(添加音)+ㄷ(未来連体形)]
+[것(物)+같다(同じだ)] /
[예쁘다(綺麗だ)+으(添加音)+ㄷ(未来連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)]}
j : あの 花が きれいだ.
→あの 花が {きれいだったようだ/きれいそうだ (きれいなようだ)}.

(15) (16) の k は「-ㅁ(過去時制)+을+것 같다」と「ㄷ+것 같다」が結合している。前者 k は、「ㅁ을 것 같다」で未実現過去推定を表している。これに対応する日本語では過去連体形を用いて (13) (14) の [早かったようだ] [きれいだったようだ] と同じ形態を取っている。つまり (13) k の [빨랐던 것 같다] と (15) k の [빨랐을 것 같다] は [早かったようだ] と対応関係を持ち、(14) k の [예뻤던 것 같다] と (16) k の [예뻤을 것 같다] は

¹⁷ 서정수(1994)

[きれいだったようだ]と対応関係を持つ。ここで(15) jの「過去連体形+ようだ」だけを取り上げ韓国語で訳してその対応関係をみる。

- (17) j : あの 人は 計算が 早かったようだ。
 k : 저 사람은 계산이 빨랐던 것 같다.

(17) [早かったようだ]に対して[빨랐던 것 같다]が対応する。普通このように[빨랐을 것 같다]より[빨랐던 것 같다]が使われるが、これは[早かったようだ]には未実現過去推定の意味が見られないことを表している。動詞連体形でも同じ結果だった。

一方、(15) (16) kの「ㄷ+것 같다」による未実現未来推定は、日本語では[早いようだ][きれいなようだ]より[早そうだ][きれいそうだ]のほうが容認度が高い。「-(し)そうだ」文は「近くそういう状態になる」¹⁸の意味から、「ㄷ」の連体形が持つ「未実現未来推定」が実現されるかどうかまだ確実ではない面において共通している。このために「-(し)そうだ」を逆に韓国語で訳すと、「-ㄷ 것 같다」の表現が用いられると考えられる。

4.3. 「存在詞の連体形+것 같다」と「-ようだ」

韓国語の存在詞は、存在の状態を表しながら統語的には動詞であって、形容詞性と動詞性を同時に有するという特徴がある。その根拠としては、動詞性が見られる点は動詞と同じように「-는(現在連体形)」が用いられること、形容詞性が見られる点は形容詞と同じように「…して」にあたるアスペクト形態と共起しないことなどがある。全体的には存在詞の状態性の特徴と関連して形容詞と共通する点がある¹⁹。ここでも(表2)の存在詞の連体形と「-ようだ」に対応する「-것 같다」における連体形の結合関係をみる。

まず、「ㄴ」系連体形と「-것 같다」の結合からみる。

- (18) k : 그 아이는 여기에 있다。
 → 그 아이는 여기에 {있는 것 같다 / 있었던 것 같다}。
 {[있다(いる)+는(現在連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)] /
 [있다(いる)+어(添加音)+ㅁ(過去時制)+더(回想)+ㄴ(過去連体形)]
 +[것(物)+같다(同じだ)]}

- j : あの 子は ここに いる。
 →あの 子は ここに {いるようだ / いたようだ}。

- (19) k : 이 사과는 맛있다。
 → 이 사과는 {맛있는 것 같다 / 맛있었던 것 같다}。
 {[맛있다(おいしい)+는(現在連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)] /
 [맛있다(おいしい)+어(添加音)+ㅁ(過去時制)+더(回想)+ㄴ(過去連体形)]
 +[것(物)+같다(同じだ)]}

- j : この リンゴは おいしい。
 →この リンゴは {おいしいようだ / おいしかったようだ}。

¹⁸ 寺村(1984)

¹⁹ 남기심・교영근(1995)、서경수(1994)

geot gatta
「-것 같다」と「-ようだ」 一前接する連体形との結合関係を中心に—

(18) (19) kで「-는(現在連体形)」に対してjでは非過去連体形が対応する。また(18) (19) kの「^{cosseon}있던것 같다」では、形容詞と同じように独立した過去連体形「-ㄴ」を持たず、結合形態で表した「-^{ss}던」が使われ、過去の回想や経験といった推定の意味を持つ。(18) (19) jを逆に訳しても同じ形態で現れる。

一方、(19)の現在連体形を用いた「^{masissoun}맛있는것 같다」は、(20)の場面では(19)のように「おいしいようだ」や「おいしかったようだ」が対応しない。

(20) k : A - (맛을 본 친구에게) 그거 맛이 어때?

B - 응, ^{masissoun}맛있는것 같아.

j : A - (味わたった友だちに向かって) それ、味は どう?

B - うん、{*おいしいようだ/*おいしかったようだ/おいしかった}。

(20)は食べ物を味わった人にその味の感想を聞く場面だが、その答えとして現在連体形の「-는」が使われている。普通の答えなら過去連体形が使われ「^{masissoun}맛있었던것 같다(おいしかったようだ)」になるが、(20)のように現在連体形を使っても表現可能である。これは日本語にはない点で、その効果としては次の二つが見出される。一つは味わった「おいしい」という感覚が現在まで続いていること、もう一つはその味の評価として「おいしい」と断定的には言い切れないけれど「おいしい方」であることを表すことである。このような存在詞の活用としては「^{jaemissida}재미있다(面白い)」「^{meosissida}맛있다(すてきだ)」などがある。

次に「ㄷ」系連体形をみる。

(21) k : 그 아이는 여기에 ^{issida}있다.
→ 그 아이는 여기에 {^{issosseul}있었을것 같다 / ^{isseul}있을것 같다}.

{[^{issida}있다(いる)+^{yo}어(添加音)+^{ss}던(過去時制)+^{eu}으(添加音)+^{deun}ㄷ(未来連体形)]

+ [것(物)+ 같다(同じだ)] /

[^{issida}있다(いる)+^{eu}으(添加音)+^{deun}ㄷ(未来連体形)]+ [것(物)+ 같다(同じだ)]}

j : あの 子は ここに いる。

→あの 子は ここに {いたようだ/いるようだ(いそうだ)}。

(22) k : 이 사과는 ^{masissida}맛있다.
→ 이 사과는 {^{masissosseul}맛있었을것 같다 / ^{masisseul}맛있을것 같다}.

{[^{masissida}맛있다(おいしい)+^{yo}어(添加音)+^{ss}던(過去時制)+^{eu}으(添加音)+^{deun}ㄷ(未来連体形)]

+ [것(物)+ 같다(同じだ)] /

[^{masissida}맛있다(おいしい)+^{eu}으(添加音)+^{deun}ㄷ(未来連体形)]

+ [것(物)+ 같다(同じだ)]}

j : この リンゴは おいしい。

→この リンゴ는 {おいしいかったようだ/おいしそうだ}。

(21) (22) kは結合形態「-^{ss}던(過去時制)+^{eu}으+^{deun}ㄷ(未来連体形)」と「^{deun}ㄷ+^{deun}ㄷ(未来連体形)」の例である。kの前者は「^{ss}cul^{deun}있을것 같다」で未実現過去推定を表している。これに対応する(21) (22) j

では過去連体形を用いて[-たようだ]を取っている。つまり(18) kの[있었던 것 같다] (21) kの[있었을 것 같다]は[いたようだ]と対応関係を持ち、[맛있었던 것 같다] [맛있었을 것 같다]は[おいしかったようだ]と対応関係を持つ。ここで(21)のjだけを取り上げkで訳してその対応関係をみる。

(23) j :あの 子は ここに いたようだ。
 k :그 아이는 여기에 있었던 것 같다。

(23)「いたようだ」に対しては[있었던 것 같다]が対応する。普通「いたようだ」は[있었을 것 같다]より[있었던 것 같다]という形態で表すのが一般的である。それは、[있었을 것 같다]が未実現過去推定の意味を持つのにに対して日本語ではその意味が見られないからである。

さて、後者に当てはまる(21) kの「있+것 같다」の未実現未来推定は、jでは[いるようだ]と[いそうだ]の両表現が可能である。二つの表現が可能であるのは存在詞だからである。つまり、存在詞は動詞性と形容詞性を同時に持つため、[있다(いる)]の動詞性が高く現れる場合は[いるようだ]が使われるし、形容詞性が高く現れる場合は[いそうだ]が使われる。一方、(22)の「있+것 같다」の未実現未来推定に対応しているjでは[おいしいようだ]より[おいしそうだ]のほうが容認度が高い。それは[おいしい]自体が形容詞性が高いもので未実現未来推定文には[おいしいようだ]が出にくいからである。

[いるようだ]の文をkで逆に訳すと[いそうだ]は[있을 것 같다]の形態だけで表れるが、[いるようだ]は(24)のように変わる。

(24) j :あの 子は ここに いるようだ。
 k :그 아이는 여기에 {있는 것 같다 / 있을 것 같다}。

(24) jの[いるようだ]に対応してkでは[있는 것 같다]と[있을 것 같다]が用いられる。つまり、「ようだ」の意味は「現在の事態に対する認識」²⁰なので、「いるようだ」にはkで現在連体形を用いた場合が対応するが、存在詞の場合は未実現未来推定としても表現することが出来る。これは、存在詞が状態性を持っているためである。

4.4. 「指定詞の連体形+것 같다」と「-ようだ」

指定詞においても(表2)と(表3)に従い「ㄴ」系連体形と「ㄹ」系連体形で分け、両言語の翻訳関係を中心に意味的な面の相違点を探る。

(25) k : 이것이 그 책이다。
 → 이것이 그 {책인 것 같다 / 책이었던 것 같다}。
 {[책이다(本だ)+ㄴ(現在連体形)]+[것(物)+같다(同じだ)] /
 [책이다(本だ)+어(添加音)+ㅆ(過去時制)+더(回想)+ㄴ(過去連体形)]
 + [것(物)+같다(同じだ)]

²⁰ 三宅(1995)

「-것 같다」と「-ようだ」 一前接する連体形との結合関係を中心に一

j : 이것이 その 本だ。
→ 이것이 その {本のようだ/本だったようだ}。

(25) k は「ㄴ」系の現在連体形「-ㄴ」を用いて連体結合している。これに対応している j では名詞に「의」形を用いて連体結合している。(25) k の過去連体形の結合においては、形容詞や存在詞と同じように独立した連体形は持たず、過去時制「-ㅆ」と「-던」の結合形態「-ㅆ던」が使われ [책이었던 것 같다] の形態になっている。これに対応している j は過去連体形を用いて結合している。逆に j を k で訳しても同じ形態で現れる。

次に「ㄴ」系連体形をみる。

(26) k : 이것이 그 ^{chae g i d a}책이다。
→ 이것이 그 {^{chae g i eosseul}책이었을 것 같다 / ^{chae g i deon}책일 것 같다}。
{^{chae g i d a}책이다(本だ)+^{eo}어(添加音)+^sㅆ(過去時制)+^{cu}으(添加音)+ⁱㄴ(未来連体形)}
+ [것(物)+같다(同じだ)] /
{^{chae g i d a}책이다(本だ)+ⁱㄴ(未来連体形)}+ [것(物)+같다(同じだ)]
j : 이것이 その 本だ。
→ 이것이 その {本だったようだ/本だと思う}。

(26) k は「-ㅆ(過去時制)+을+것 같다」と「ㄴ+것 같다」の結合である。k の前者は「-ㅆ을 것 같다」で未実現過去推定を表している。これに対応する j では過去連体形を用いて (25) の [本だったようだ] と同じ形態を取っている。これを逆に訳すと (25) の k の [책이었던 것 같다] のように現れる。

(27) j : 이것이 その 本だったようだ。
k : 이것이 그 ^{chae g i eosseon}책이었던 것 같다。

(27) が [책이었을 것 같다] より [책이었던 것 같다] で表れるのは、形容詞や存在詞でも考察したように、日本語には未実現過去推定の専用の形態がないからであろう。

また、k の「ㄴ+것 같다」形態では、j に「-ようだ」ではなく「-と思う」がよりよく対応する。ここでも韓国語の未実現未来推定は日本語では表しにくいことが分かった。

5. まとめ

本稿では「-ようだ」と「-ㄴ」系連体形を中心に考察した。

まず、韓国語の「ㄴ」系連体形(実現)と「ㄴ」系連体形(未実現)の相違点を理解した。「ㄴ」系連体形が現在連体形と過去連体形を表す場合には、日本語でも非過去連体形と過去連体形を使い、各々の時制は一致した。

しかしながら、「ㄴ」系連体形では、「-ㅆ(過去時制)+을(-던)+것 같다」の構造で韓国語が「未実現過去推定」の意味を持つものに対して、日本語にはその専用形式がなく意味上対応しないという差があった。一方、「ㄴ+것 같다」の構造で韓国語が「未実現未来推定」の意味を持

つものに対して、日本語には動詞が連体形を持つ時「-ようだ」「-(し) そうだ」両方が使われるが、形容詞の場合は「-ようだ」より「-(し) そうだ」の方の容認度が高い。また、存在詞を含む述語の場合は、動作性が高いものは「-ようだ」「-(し) そうだ」両方の表現が可能だが、状態性が高いものは、形容詞と同じように「-ようだ」より「-(し) そうだ」の方の容認度が高い。指定詞の場合、「-ようだ」「-(し) そうだ」の形態は用いられず、「と思う」が使われるという現象面の整理ができた。

以上、「-것 같다」^{ㄱㄱ}と「-ようだ」の連体結合関係を対照し、その相違点を考察した結果、「-것 같다」^{ㄱㄱ}と「-ようだ」のモダリティ表現は連体形を伴って時制/相まで絡んだ意味を表していることが分かった。モダリティの表現を構造的に見るためにはこのような時制/相を考慮に入れて研究を進める必要がある。今後の課題である。

参考文献

- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 趙義成(1999)『東京外国語大学 外国語学部 言語・情報講座 趙義成研究室』
「<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/choes/index.html>」
- 朝鮮語学小辞典『朝鮮語の部屋』「<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/choes/korean/shojiten/index.html>」
- 中島孝幸(1990)「不確かな判断—ラシイとヨウダ」『三重大学日本語学文学』pp.25~33
- 三宅知宏(1995)「ラシイとヨウダ—概言の助動詞①—」『日本語類義表現の文法』宮島達夫・仁田義雄編 pp.183~189
- 森山卓郎(2000)「認識のモダリティとその周辺」森山卓郎・仁田義雄・工藤浩『モダリティ』岩波書店 pp.81~159
- 구연미(1992)「서법범주로서의 추정법에 대하여」『우리말 연구 2』pp.59~76
- 남기심・고영근(1995)『표준국어문법론』塔出版社
- 서정수(1994)『국어문법』뿌리깊은나무
- 이기중(2001)『우리말의 인지론적 분석』도서출판 역락